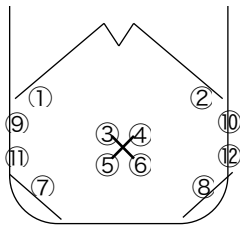
[3.2] 慢性期の刺鍼手順、うつ伏せと座位

(1) 全体の流れ

① 左右？

・左右どちらから
始めるか決める
腹の古いツボを
参考にして



腹の古いツボ

② 仰向け

- 手（手甲）
  1.陰経
  2.陽経
- 腹
  1.横腹
  2.小腹
  3.大腹
- 足
  1.陰経
  2.陽経

③ うつ伏せ

- 背腰　上→下
- 臀部　症状？
- 下腿　下腿裏

④ 座位

- 肩首（散鍼）
  1.肩
  2.首
- 胸～首前（散鍼）
  (1.胸上部)
  (2.鎖骨～首)
- 頭　1.散鍼
  （刺鍼）
- 手　手の甲

(2) うつ伏せ・座位の流れ

③うつ伏せ　（＊）腹と同じ側が２／３

- 背中　・上から下に（肩胛骨下角より下、華陀経、痞根・腰徹腹、(１~２行線)）
  （腹側の症状の出ている所の裏側）
- 臀部　（症状に関係するツボが出ていれば刺鍼）
- 下腿　・裏側（主に、膝から足首（特に、築賓、承山、飛揚など））

④ 座位　(*) 熱い所は、先ず散鍼（肩、首、胸上部～前首）

- 肩首　1.肩（首の付け根から肩井、肩胛骨内側縁）
  2.首（後頭骨下縁、華佗経、横頚部中央）
- 胸~首前　（症状があれば、胸上部）
  （症状があれば、鎖骨～首前部（鎖骨の首側の痼りより2,3cm顎より）
- 頭　・熱い所に散鍼（触って、手をかざして）
  （症状があれば、刺鍼（浅め））
- 手　・陽経・手甲（八邪）（井穴、水掻きなどに反応のある所に対応するツボ）